



ほんなこてゆたたり



文責 校長 平井 敏博

【令和5年度学校教育目標】

大人も子どもも、目指すは“とことん学び続け、とことん学び合う人”
～生涯学びの基礎づくり～

【内容ダイジェスト】

校長、“全校児童怒鳴りつけ疑惑”発生！？

- ・運動会の全体練習初日、今まで見たことのないすばらしい様子を見せられました。
- ・マイクを使って、声高に誉めたことが…。

トラブル対応。本当の信頼関係を築くためには、感情の領域に入り込むことも必要になる。

・様々な問題・課題に本気で対処しようとするれば、お互いの感情の領域に入ってしまうことも避けては通れなくなります。そこで揺るがすことができない「中心は子どもの“今”と“これから”」であるということです。

校長、“全校児童怒鳴りつけ疑惑”発生！？ ～運動会練習初日の感動・感激で、つい・・・～

10月11日(水)の運動会練習初日のことです。その様子が、これまで見たことのないすばらしいものでした。先生方の指示・指導の声は一切聞こえず、6年生・5年生の子ども達が、それぞれ自分の役割を意識して、率先して行動していました。



練習前の実行委員の打合せです。リーダーとなる高学年が、しっかりと見通しをもっておかないと練習もうまくいきません。



高学年が低学年に、ていねいに場所を教えています。教える高学年は、自ずと、率先して手本を示してくれるようになります。

全校児童の意気込み、態度があまりにすばらしかったので、マイクを使ったまま、大声で、ハイテンションで誉めてしまいました。その後、中学校の先生や、校舎の工事関係の皆さんに、「朝から、大声で、はいかきおったですね。（怒ってしましてね。）」と言われました。「誉めおったとですよ！（誉めていたのですよ!）」と説明しても、言い訳に聞こえたようでした。信じてください。本当に誉めたのです。



全校児童の前に立ち、堂々と指示・説明をしてくれる実行委員の皆さんに、頼もしさを感じています。



各団に分かれて、応援練習です。応援リーダーはもちろんのこと、その他の高学年の取り組み方も、“精一杯”を感じました。

トラブル対応 感情の領域にも入り込む

“叩いた、叩かれた”“蹴った、蹴られた”“石を投げた、投げられた”“傷つける言動”“いじめ”等々、けっして放ってはおけないトラブルです。事象発覚後、まず事実確認をして、その後の対応をしていきます。

児童、保護者、職員の感情の領域にも入り込みます。“頭で分かっていること”よりも、さらに心の奥の“感情の領域”です。理屈ではないところです。公式通りに解決できないことも多いです。

分かったような言い方をしてしまいますが、学校は、多種多様な個性の集まりですので、トラブルはなくなりません。むしろ、そのトラブルこそ、大事な学びの機会となります。子ども達の“今”と“これから”を考える重要な機会です。

お互いの個性を大事にしながら、かつ、集団・チーム・社会としてのまとまりも不可欠です。どうしても、相手の立場や思い・考えを気遣うことが必要です。まさにこのことは、学校で学ぶことの柱の一つです。



感情の領域に入り込むのは、エネルギーは必要ですし、不安やストレスを感じることもあります。しかし、信頼関係を深め、“ひっきやで子育て”を実現するために、大事な機会と捉えてやっていきます。今後とも、ご理解とご協力、なにとぞ、よろしく願いいたします。